



「あっ」と驚かせるような
技術や装置を
一緒に開発しましょう

杉本 幸代 / SUGIMOTO SACHIYO
博士(理学)

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 光を物質に照射した時に起きる現象を観測し、何がどこにどのくらいあるのかなどを明らかにする「光計測」に関する研究を行っています。たとえばガスを計測したい場合、便利なのはガスセンサですが、温度や圧力といった条件によってはセンサを置けなかったり、センサそのものがガスの流れに影響を及ぼすケースもあるんです。そうした時は、離れた場所から非接触で計測できる光計測の技術の出番。私たちの技術がお客さまの役に立っていると実感できるのが、一番のやりがいですね。広い視野と興味関心を持って自分の専門知識を深めていくことはもちろん、自分のノウハウを後輩たちと共有し、チームの成長を支える存在になれるよう頑張っています。

Q. オフの楽しみは？

A. 登山やスポーツクライミングが趣味なんですが、ちょっとお休み中。ガーデニングやケーキ作りに凝ってみたり、クラシックギターをたしなんだり、最近はパンダの彫刻にもチャレンジしています。少し前にカヤックを購入したので、今年の夏はシーカヤックで水上散歩を楽しみたいです。



材料強度の
スペシャリストとして
活躍していきたい

中村 拓弥 / NAKAMURA TAKUYA
博士(工学)

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 火力発電所では、安定した電力供給を守るため、高温部材が損傷して蒸気が漏れ出すといった不具合を未然に防ぐことが重要です。そのためには、高温部材の寿命を詳しく評価し、適切なタイミングで補修や更新をする必要があります。私の仕事は、高温部材である蒸気配管などを対象に、「寿命評価解析」「高温引張試験」「金属組織調査」を行ってどのくらい余寿命があるかを評価すること、評価法そのものを新しく開発すること。言わば電力の安定供給を支える縁の下の力持ちですね。

Q. 仕事のやりがいとは？

A. 何か不具合があって火力発電所が運転を停止すると、その影響は計り知れません。不具合を防ぐに当たっては、点検時のデータなどをもとに私たちが評価した部材の余寿命が補修や更新計画に反映されますから、非常に責任が伴う仕事をしている実感があります。既存の評価法に感じていた課題を解決したり、精度を向上したりする新たな評価法の開発は、学術誌に成果が掲載されることもあり、研究者として業績を築く手応えも感じられます。私たちの仕事は、発電所の「ホームドクター」のようなもの。評価技術の向上とともに新しい部材の知見も深めて、スペシャリストとして道を究めたいと思っています。



難しい・辛いことも
ワクワクすることがあれば
乗り越えられる

内田 嗣人 / UCHIDA HIDETO

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 四国には、日本で最も長い活断層「中央構造線活断層系」をはじめ、多くの断層が分布しています。その活動性を、地質・地形調査や地震・測地データから評価するのが私の仕事です。発電所の耐震安全性評価のため、発電所周辺の岩盤調査なども行います。

大学・大学院では地質学を専攻し、地質構造や断層岩に関する研究に従事していました。この経験を地元・四国に貢献する仕事で生かしたいと思っていた私にとって、自然災害に関する研究活動ができる当社の仕事はとても魅力的。四国エリアの地震評価・活断層評価の知見向上につながる仕事を目指しています。

Q. 仕事のやりがいと今後の目標

A. 断層の活動性に関する研究成果をどんどん公表し、今後は大学院の博士課程への進学も視野に入れていきます。地震などの自然現象や、長い時間をかけて岩石の中に形成された断層が対象ですから、はっきりした答えが出ることは少ないんですが、顕微鏡やパソコンを駆使してそこから何が読み取れるかを試行錯誤するのがとても楽しいですね。新たな発見は容易ではありません。トライ・アンド・エラーを繰り返し、さまざまなアプローチを試みて、「少なくともこの分野では自分が第一人者だ!」と胸を張れるよう頑張っています。



「化学」的な知見で
社会のインフラを
支えています

中村 峻介 / NAKAMURA SHUNSUKE

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 火力発電所が安全で安定的に電力を供給し続けるためには、設備を「化学」の視点から守る高度な管理が欠かせません。私は主に水質管理や環境保全といった化学管理の側面から、現場が直面する課題解決や、突発的なトラブルの原因究明に向けた研究・調査を担当しています。例えば、火力発電所では運転時に発生する排ガスや排水を厳しい基準を守りながら適切に処理し、自然の中に返しています。その状態を維持するだけではなく、そうした環境負荷をさらに低減させることも持続可能なエネルギー供給に向けては重要であり、その実現のためにより高度な処理方法の研究に取り組んでいます。

Q. 仕事のやりがいと今後の目標

A. 発電所が抱える課題は多岐にわたりますが、自ら導き出した分析結果や研究の成果が現場に活かされ、発電所の安定運転に直結した際に大きなやりがいを感じます。社内には様々な分析装置に加え、異なる専門性を持つ心強い仲間が集まっており、一つの事象に対して多角的なアプローチができる環境があります。ある課題に対して最適解を追求する過程で、幅広く知識や知見を習得できる点も魅力です。今後さらに経験を重ね、この分野において「この人に任せれば間違いない」と周囲から信頼を寄せられる研究者へと成長し、社会インフラの安定維持と持続可能な発展に貢献し続けたいと思っています。